

公募型プロポーザル方式による新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託業者選定について

令和 7 年12月23日 生涯学習部

新花巻図書館の整備については、本年5月19日に令和7年第6回教育委員会議定例会においてJR花巻駅前を新図書館建設用地とする新花巻図書館整備基本計画が議決され、令和7年花巻市議会6月定例会に基本・実施設計業務の債務負担行為を含む補正予算等の議決をいただき、公募型プロポーザル方式による新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託の業者選定を行いました。

1. 実施日程

新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託の公募型プロポーザルは、以下の日程により実施いたしました。

令和7年 7月 24 日(木) 実施要領等の公開
令和7年 7月 24 日(木)～8月6日(水) 質疑受付期間
令和7年 8月 13 日(水)質疑への回答(参加表明書に係るもの)
令和7年 8月 14 日(木)～9月 17 日(水) 参加表明書、第一次審査書類の提出期間
令和7年 9月 26 日(金) 第一次審査
令和7年 9月 30 日(火) 第一次審査結果の通知
令和7年 11月 19 日(水) 第二次審査書類の提出期限
令和7年 11月 24 日(月) 第二次審査(公開プレゼンテーション)
令和7年 11月 25 日(火) 審査結果の公表
令和7年 12月 3日(水) 審査講評の公表

2. 第1回選定委員会

第1回選定委員会を7月11日13時30分よりオンラインで開催しました。

会議は、審査項目等の今後公表する内容を協議することから、花巻市情報公開条例第7条第5号に基づき非公開で実施しました。

会議では、委員長・副委員長の選任やプロポーザル実施要領等に関して協議し事務局が修正後、メールで委員の確認を得て7月24日に公告しました。

また審査について、第一次審査は9月26日に東京都で開催し、第二次審査は11月24日に花巻市において、提案者のプレゼンテーションを一般に公開する方式で開催することとしました。

3. 応募状況と審査経過

本プロポーザルには計 61 者の応募があり、多様な提案が寄せられました。審査は 2 段階で実施し、第一次審査で 6 者を選定、第二次審査で最終的な優先交渉権者と次点者を選定しました。

(1) 応募資格

応募資格(参加資格)は、一級建築士登録を受けた個人または法人で、延床面積500㎡以上の公共施設の設計実績を持つことを条件としました。個人のほか法人や共同企業体(JV)の応募も可能とし、このように条件を広く設定することで、多様な提案を促すとともに、市内の設計業者も参加しやすいようにしました。

(2) 審査について

① 第一次審査

提案者の能力や技術者の資格・経験、同種業務の実績などを評価する「定量的評価」と、提案内容の独創性や実現力を評価する「定性的評価」の両面から総合的に判断し、また、当地域の気候や特性をふまえた経験と実績も考慮しました。

なお、市内業者が参画できる可能性を高めるために、市内業者を加えた共同企業体(JV)を結成する場合には、評価点に点数を加えました。

第一次審査は、令和7年9月26日に東京都内にて行われ、自由に意見を出すことが重要であるという委員の意見をふまえ、非公開で実施しました。

審査の結果、6者を第二次審査の対象としました。なお、第一次審査の結果については、全応募者である61者に対して審査結果について通知し、また、第二次審査の対象となった6者に対しては、それぞれの提案に対する講評と第二次審査の参加の案内を通知しました。

② 第二次審査

第一次審査を通過した 6 者を対象に、11 月 24 日(月 振休)に公開プレゼンテーションを実施いたしました。なお市民をはじめとする延べ188名の傍聴者がありました。

公開プレゼンテーションは、第二次審査参加者が技術提案書を基に当日抽選で決定した順番で、1 者あたり 15 分間のプレゼンテーションを行い、その後、選定委員のヒアリングを受ける形で実施しました。

選定委員による審査は、公開プレゼンテーション終了後、非公開で行われ、その後提出された技術提案書やヒアリングを基に、選定委員会において優先交渉権者と次点者を選定しました。

ア. 優先交渉権者及び次点者

優先交渉権者 昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体

次点者 西澤・畝森設計共同企業体

イ. 第二次審査参加者(参加表明書提出順)

有限会社 マル・アーキテクチャ、西澤・畝森設計共同企業体、キッタン・スタジオ・ウエスト設計共同企業体、昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体、C+A・木村設計 A・T 共同企業体、FULL POWER STUDIO 株式会社

③ 優先交渉権者(昭和設計・t デ・山田紗子建築設計事務所共同企業体)

ア. 業務の実施体制

別添資料 ①-1のとおり

イ. 提案書

別途資料 ①-2のとおり

ウ. 提案要旨

「ハナマキ・ナレッジ・コモンズ」として、駅広場と連続する地続きの立体回遊空間と多様なコモンズを核に、市民ライブラリアンと共に運営・共創する公共図書館が提案されました。可動書架・ものづくり空間・絵本階段・テラスなど段差とスロープで多様な気積をつくり、ZEB 配慮の経済的鉄骨構法でコンパクトに整備し、また、地域文化の発信・継承と市民活動のインキュベーション機能を担うものとしています。

エ. 選定委員会による審査講評

各ジャンルの図書が連坦しながら、豊かな空間が生み出されている柔軟な構成をもつとともに、時間外利用ゾーンの空間的魅力や、広場に小さな空間を張り出させてその魅力化を図るなどユニークさを併せ持つ提案であることが評価されました。また、可変性のある閉架ゾーンを中心に、多様な空間を配置する構成

は明確であると評価されました。計画全体に、身体知をきっかけにした余地を意図的に設けるアプローチは、賢治の精神とも呼応するとの意見もでました。

「市民ライブラリアン」の提案は可能性を備えている一方で、その実現のためには、今後の体制作りが不可欠であり、行政や関係者を含めてさらなる議論が必要であると評価されました。

また、複数の事務所、学識者が関わるチーム構成は魅力的で、プレゼンテーションにおいても、若い設計者の視点と経験豊かな学識者の融合が、期待を持って受け止められましたが、実施段階でそれを担保できるかは不透明な部分も多いとの意見も出ました。

しかしながら、最終的には、そのあたりの課題を乗り越えることが出来る強さを備えていると判断され、最優秀者として選定されることになりました。

④ 次点者(西澤・畝森設計共同企業体)

ア. 業務の実施体制

別添資料 ②-1のとおり

イ. 提案書

別途資料 ②-2のとおり

ウ. 提案要旨

駅前広場と連続する半屋外の「みち／まど／そらテラス」と、多様な居場所をつくる「アルコーブ」を重ねた可変的な四層の図書館というコンセプトでの提案がされました。堅牢な RC メッシュ外郭と可変性重視の鉄骨内装を組み合わせ、蔵書は当面 34 万冊で運用し 2050 年に再検討したほか、断熱・換気・防振や PAC・床輻射等の省エネ対策を導入し、地域文化発信と市民活動の拠点化を目指すものとしています。

エ. 選定委員会による審査講評

新花巻図書館整備基本計画においては、蔵書数を長い期間をかけて段階的に構築することが想定されています。計画された冊数も、快適な閲覧空間と延面積の限定などと向きあって具現化しなければなりません。提案は、今回のプログラムが潜在的に有するそうした課題を的確にあぶり出すとともに、人口減少が課題となる地域の状況を見据えて、事業の再調整をも視野に入れた骨太なものでした。

様々な居場所となる魅力的なアルコーブから構成された全体からは、利用者がそれぞれにお気に入りの場所を見つけ出す様がイメージできる優れた構成となっている点も評価されました。

その一方で、避難安全検証法の採用と将来的な変更を積極的に想定することに設計思想として矛盾があるという点や、アルコーブを魅力的かつ安全に運営するためには、図書館を運営するスタッフにかかる負荷が大きく、それを現段階で想定することが困難であるとの意見がでました。

これらの意見を勘案しながら審査委員会で慎重に議論をしましたが、花巻市の図書館としての発展性から考えると、C案に卓越する点を見出すことは残念ながら困難であったため、次点者として選定されることとなりました。

新花巻図書館の整備について

令和 7 年 12 月 23 日 生涯学習部

1. 建物整備関係

1.1 令和7年度～令和8年度

令和 8 年 1 月に、基本・実施設計業務委託契約を締結予定で、設計期間は約 1 年半となります。

基本・実施設計業務委託プロポーザルで選定された提案内容は、新花巻図書館整備に対する提案者の考え方に基づくものであり、今後、市民ワークショップ等を通じて市民の意見を聴取し、反映しながら基本・実施設計を進めます。

1.2 令和8年度

基本・実施設計と並行して、既存建物の解体設計、外構設計、ボーリング調査を実施予定です。(令和 8 年度予算要求予定)。

1.3 令和9年度以降

(令和 9 年度)

地方教育行政法第29条に基づき、教育委員会の意見を伺った上で、債務負担行為として建築工事費を当初予算に計上予定です。

基本・実施設計業務委託プロポーザルでは、提案者に想定事業費として約 40 億円、完成年度を令和 12 年度とする前提で設計案を提示されています。今後、人件費等の高騰により事業費が上昇する可能性があります。設計業者には想定事業費内での設計を求めている予定です。

(令和 9 年度～11 年度)

建築工事(工期:約 2 年半)については、地方教育行政法第 28 条第2項に規定する教育委員会の申し出を受けた上で、同法22条第5号に基づき契約事務を進めます。なお、契約の締結にあたっては、花巻市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例により、市議会の議決を得て契約を締結します。竣工は令和 11 年度末～令和 12 年度当初を予定しています。

(令和 12 年度)

外構工事を実施し、全体整備を完了する計画です(合併特例債の活用期限内に完了予定)。

2. 土地取得関係

2.1 令和7年度

用地境界を確定し必要面積を確定。

2.2 令和8年度

- ・ 岩手県と土地収用法に基づく事業認定に係る事前協議を実施します。
- ・ 市は令和2年に実施した土地評価額を基準に価格の時点修正を行います。またJR東日本でも同様の土地鑑定評価が行われ、市が提示する価格の検証・確認が行われます。

2.3 令和9年度以降

(令和9年度)

- ・ 地方教育行政法第29条に基づき、教育委員会の意見を伺った上で、土地取得費を当初予算に計上予定です。
- ・ 岩手県から土地収用法に基づく事業の認定を受ける予定です。
- ・ 市財産評価審議会に土地価格の妥当性を諮問し答申を受ける予定です。
- ・ 地方教育行政法第28条第2項に基づく教育委員会からの正式な土地取得に関する申し出を受け、土地取得契約を締結します。
- ・ 土地取得後に既存建物の解体工事を実施し、その後、建物本体の建築工事に着手します。

3. 蔵書等の検討状況

- ・ 新花巻図書館の蔵書に関しては、新花巻図書館整備基本計画に基づき、資料収集方針と選書基準の見直しを行っています。新花巻図書館計画室、現花巻図書館および各地域館の司書が協働で素案を検討中です。今後、吉成先生、早川先生などの図書館の専門家の助言を反映させつつ引き続き検討を進めます。
- ・ 新花巻図書館整備基本計画に定めたサービスを提供するために、必要な職員配置について、他自治体の例や吉成先生・早川先生などの図書館の専門家の意見を伺いながら検討を進めます。

4. その他

- ・ 今回の基本・実施設計プロポーザルでは、「利用者自身の興味・関心から能動的に図書館に関わる市民(以下「市民ライブラリアン」)」と共に運営・共創する公共図書館を目指す提案が採用されました。選定委員の審査講評でも示された通り、「市民ライブラリアン」の運用には可能性がある一方で、実現には体制整備や関係者を含めた更なる議論が不可欠です。実現可能性を含め、今後詳細を検討していきます。

(様式 11) (A 4 版)

新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託プロポーザル 業務の実施体制(二次審査用)

本業務の実施体制として、「ワークショップ等による意見の反映方法」「コスト管理の体制」「業務進捗管理の体制」「そのほかに特に重視する業務体制等」(提案書に記載する内容を除く)を論述し、A 4 版縦 2 枚以内(文字サイズ 10.5 ポイント以上・図表可・着色不可)とし、論述部分は具体的に示すこと。

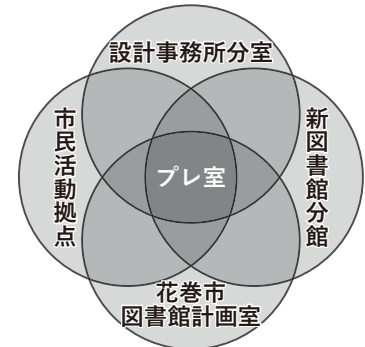
ワークショップ等による意見の反映方法

(1) 花巻駅近くに新図書館のための【プレ室】をつくります。

「花巻市に本当に必要な図書館」をつくっていくためには、**設計の最初期段階から敷地の近くに地域に開かれた拠点をつくる**ことが重要だと考えます。

それは〈常駐して設計を行う**設計事務所の分室**〉〈先行してまちなかに開く**新図書館の分館**〉〈花巻市の**図書館計画室の分室**〉〈地域の人々の活動を育む**市民活動拠点**〉にもなり、それぞれが重なり合った**【プレ室】=新図書館への前段の場**として地域の commons となります。

- ・〈設計事務所の分室〉としては、いつでも誰でも来訪可能な場とすることで、設計の進捗毎に意見を募ることができ、単発的なWSだけでは拾いきれない**数多くの小さな声に耳を傾け、地域に密着した形で設計を進めていきます**。3Dプリンターを備え、常に更新を可視化します。
 - ・〈新図書館の分館〉としては、建物ができる前から敷地の近くで**図書館機能を試行展開**していくことができます。**まちライブラリー**のように地域の人が気軽に本に触れられる場となり、本の輪を広げていきます。
 - ・〈市の図書館計画室の分室〉としては、常に**進捗状況が一望できる打合せ場所**になります。夜間、役所が閉まっている時間帯でも、仕事帰りの市民も集うことができる場として使用できます。
 - ・〈市民活動拠点〉としては、新図書館で想定される活動の実験の場とすることで、**開館前からコミュニティが形成**されていきます。計画段階で実際に活動してみることで、そこでの細かな気づきの積み重ねを設計に反映することができます。日常的に関係性が深まり、**人々が自分ごととして積極的に携わっていける連帯感を醸成**し、サポーターを増やしていくことにつながると考えています。
- ⇒ プレ室に重なり合う団体や活動は時間と共に増えていき、多くの人にとっての commons となります。私たちが提案する**様々な領域・分野が重なり合う「ナレッジ・commons」**は、**地域の人々と共にプレ室から少しずつ育ていき、新図書館に引き継いでいきます**。

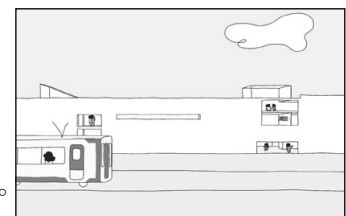


【プレ室】地域に開かれた拠点 “Pre-” 「新図書館への前段の場」

- ・ Pre-paration (準備)
- ・ Pre-sentation (提案・説明)
- ・ Pre-liminary (予備・先行)
- ・ Pre-view (予見・試写)
- ・ Pre-set (初期設定)

(2) 地域の人々と共に線路側立面全体を【大きな壁面作品】とします。

西日を抑えるために開口部を絞った線路側の外壁面には、**地元作家と共にWSで市民の手によって描かれた壁画を全面的に展開**します。地域の人々が建物づくりに直接参加でき、愛着を生むとともに**市民の手による世界最大級かつ世界で唯一のコミュニティアート作品**となります。



コスト管理の体制

- (1) **【設計JV内に所属する建築積算士】が並走しコストを管理します。**昨今の物価高騰には、従来の外注型の断続的なコスト管理では対応が困難です。**JV内で並走することで随時反映が可能となり、蓄積したノウハウも活かします。**定期的に概算を市と共有し透明性の高いコスト管理を実現します。
- (2) **工事種目ごとに予算目安を定め、スペック決定の物差しとすることにより、各段階で概算工事費を予め把握し、コストバランスの指針を示しながら手戻りなく実現性の高い計画案を作成**できます。

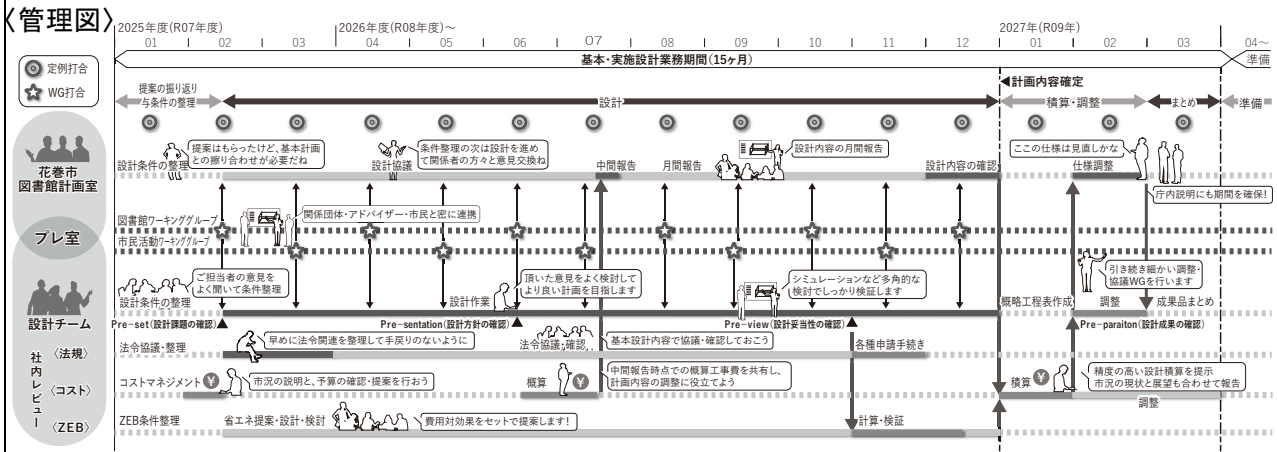
(様式 11) (A 4 版)

新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託プロポーザル 業務の実施体制(二次審査用)

本業務の実施体制として、「ワークショップ等による意見の反映方法」「コスト管理の体制」「業務進捗管理の体制」「そのほかに特に重視する業務体制等」(提案書に記載する内容を除く)を論述し、A 4 版縦 2 枚以内(文字サイズ 10.5 ポイント以上・図表可・着色不可)とし、論述部分は具体的に示すこと。

業務進捗管理の体制

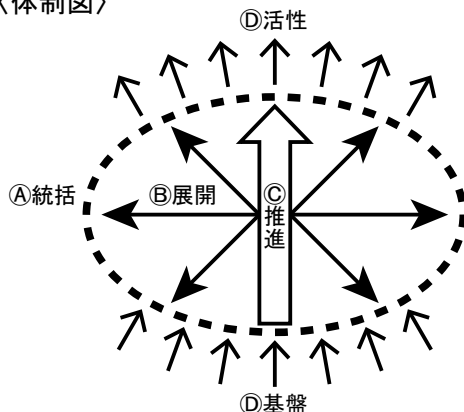
- (1) **課題に応じたカテゴリーごとの【ワーキンググループ(WG) 打合せ】を設けます。** 定例打合せに加え、**様々な関係者や市民と密接に対話**を重ね、意見を整理・反映し共有できる仕組みを作ります。
- (2) **プレ室をWG打合せを行う場としても利用**することにより、日々更新されていく模型やCGなど視覚的な情報が常に一望できるようにします。**各分野の業務進捗を全ての関係者で共有し、一体感を高めながら齟齬なく進めていくことが可能となります。**



そのほかに特に重視する業務体制等

多様な価値観を取り込み、包摂的な図書館をつくるため【個性と専門性を掛け合せた集合知のチーム】で臨みます。〈④実績と技術力で総合的に統括する組織設計事務所〉〈⑤地域性を独自性へと展開し意匠設計を取りまとめるアトリエ設計事務所〉〈⑥独創的な発想で柔軟に空間構成を推進するアトリエ設計事務所〉〈⑦東北に所在する公立美術館で館長として運営にも関わる建築計画研究者〉を中心にそれぞれの強みを活かし、**様々な視点から知を集結させた実現性の高い設計案**をつくっていきます。

〈体制図〉



④統括：組織設計事務所
多数の図書館や地域交流施設、県下の設計実績と技術力を有し、ZEB Ready取得実績をもつZEBプランナー認定事務所が、適切なコスト管理で事業を総合的に統括

管理技術者／公共建築賞を受賞した市民協働型図書館の設計実績、**自身も市民ライブラリアン**として活動中
・電気設備主任担当技術者・建築(構造)主任担当技術者・機械設備主任担当技術者・建築(積算)主任担当技術者

⑥推進：アトリエ設計事務所
独創的な発想・新しい手法・柔軟なデザインを活かし、ここにしかない唯一無二の空間づくりを推進

建築(意匠)担当技術者／住宅から公共広場まで、**人々の多様な活動を生む空間**を実現してきた実績を活かし、空間構成を担う

⑤展開：アトリエ設計事務所
地域性を独自性へ展開する設計経験・多くの関係者間の調整力を活かした設計の取りまとめ

建築(意匠)主任担当技術者／地域拠点を設け常駐し**地元の人々と共に公共施設をつくる実績**を活かし、プレ室から地域の声を拾い上げ、地域特有の建築に展開

⑦基盤・活性：建築計画研究者/公立美術館館長
建築計画・学術的視点、地域文化施設・運営面から計画案の発展を下支え

建築(計画)担当技術者／多数の自治体における文化施設の計画実績、東北の市民協働型美術館の運営実績を活かし、ハード・ソフト両面から計画を支援

ハナマキ・ナレッジ・ commons

「多様な境界面」と「地続きな立体街路」によって「市民ライブラリアン」が次々に息吹く、「生きた知」の複合拠点となる図書館を提案します。必要なのは、各機能がいかに出会い直すことができるか、その調整としての設計です。

●境界面を増やすゾーニング

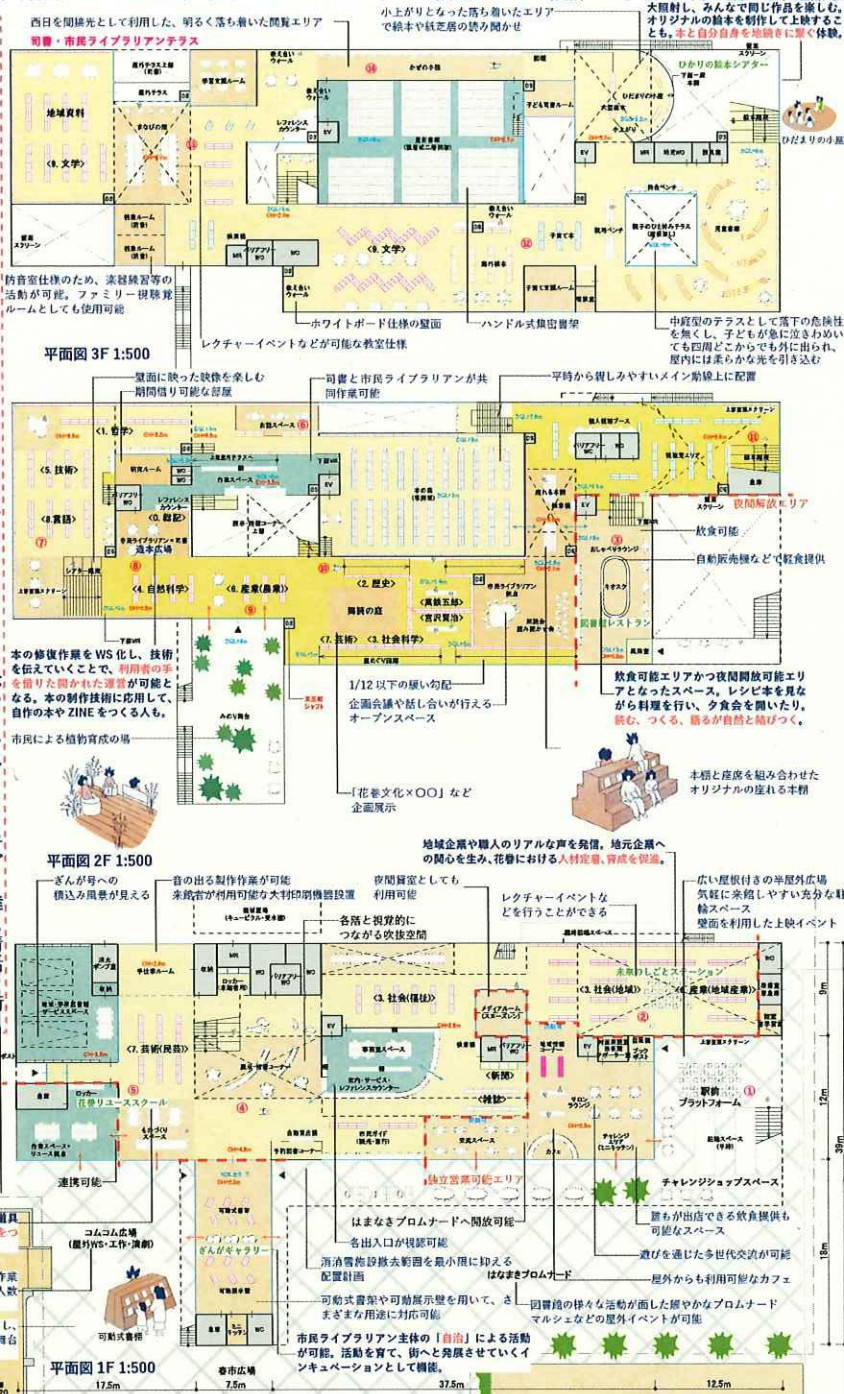
コンパクトに分けられた運営・利用部門との間には最低限の境界面だけがあります。運営部門内のまともは維持しながらも、形状を解き、引き延ばすことで、境界面の種類を増やしていきます。多様な境界面は、運営・利用者の二者間にあいを生み、新たな関係性のきっかけとなります。

●様々なcommonsが生まれるプラン

各分野のユニークな書架閲覧空間が数珠状に連なるとき、交わり、重なる場に「共に知り・考え・見つけ・生み出す」共同体としてのcommonsが生まれます。

書架とcommonsの連続は立体街路となって、閉架書架や管理スペースに巻きつき、さまざまなコミュニケーションが発生する場＝境界面をもたらします。

●市民ライブラリアンと生きた知
commonsと境界面は、利用者と図書館を繋ぐ市民ライブラリアンの活動拠点となり、図書館を能動的な活動の舞台へ書き換えていきます。図書館に長年蓄積された情報は、今を生きている人の生活そのものと結びつき、「生きた知」となっており、花巻の街を彩っています。



●平面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)

駅側は賑やかな、駐車場側は落ち着いた活動が分布するゾーニング。渦巻く回遊動線上に両者の性質が交互に現れます。

●断面ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)

花巻文化を深める層を中間軸に据え、上階で深度化、地上階で発信を主とした断面構成。

●活動ゾーニング 評価 (1)(2) テーマ (ア)(ウ)

各階の運営部門は利用者部門と極力境界面をもつよう配置。commonsは隣接・近接する境界面を重ね合わせた場として、分野を横断したコミュニケーションの拠点となります。

●最低限の操作 評価 (1)(3) テーマ (ウ)

2層目に2種類のレベルを設定し、段状・スロープ状に結び最小限の操作により、一般的な3層建築と同規模ながら、さまざまな気積=形をもった空間を実現します。

●文化活動の本館として 評 (1) テーマ (ア)

お祭りに適した既存広場の非日常的なスケールを、日常的なスケールの集まりに分節。緩やかに連ね直し、新たに4つの広場を整備します。それぞれの広場は周辺既存施設と呼応し、「花巻駅のもう一つのプラットフォーム」、「商店街のような街路」「市が立つ程よく囲われた空間」「舞台・制作空間」となっており、花巻駅前に新しい賑わいを創出します。

●構造・設備断面計画 評 (2) テーマ (イ)

【構造計画】鉄骨造とし、小断面の流通材を前提とします。経済性に優れたスパン割で構成し、重量物が集中する箇所は、5m程度の短スパンで無理なく支え、空間のアクセントとして活用しながら、全体の鉄骨量を抑え、低コストかつエンボディドカーボンを抑える環境に配慮した計画とします。各メンバーを最小限に、階高を抑えることで距離感を低減し、連続的な空間を実現します。

【設備計画】階高を抑え、各空間の気積をコンパクトにします。視線の抜けを確保しながらも、吹抜空間は最小限として、空気に縁を切り、各部の空調負荷を低限に抑えます。床置き空調機を基本とし、暖房時は天井と床面付近から室内空気を取り込み、低い位置から吹き出す空調方式とすることで、特に冬季において、上下温度差を抑えます。柱とDSを抱き合わせた又三郎シャフトは各空間からの換気経路であり、壁柱を兼ね架構のメンバーや鉄骨量を抑える役割も果たします。

実施設計時、地盤調査をもとに最適な基礎構造を検討

●街と地続きな立体回遊空間

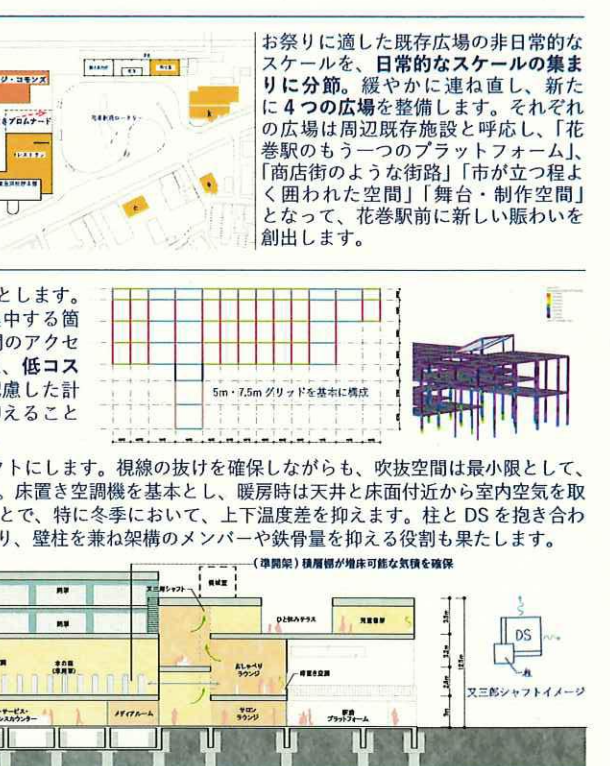
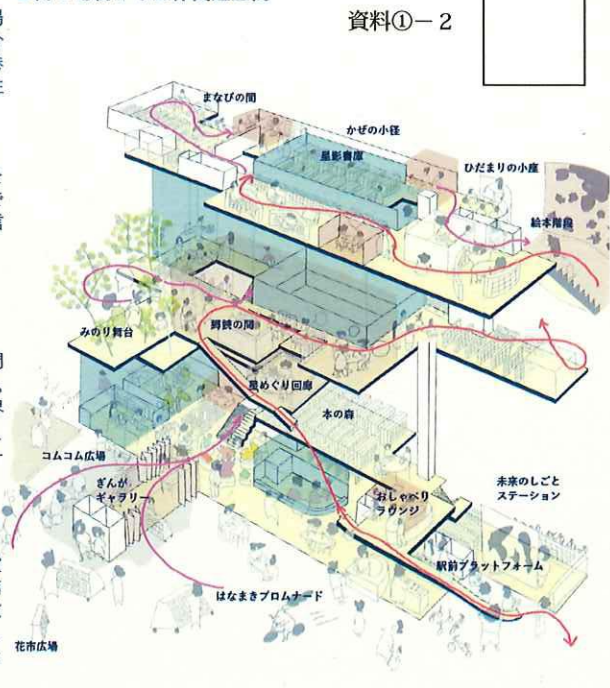


Illustration of a multi-story building. Children are playing on the stairs. A sign on the building says "CD?".

うちは子猫

お読書してください

これ読んで！

遊びながら学びが生まれ、伝えられる公園のような空間

教室は私が教えるね！

これはあの参考になるかも。

これは○○の授業の資料で、
教える人、教わる人が入れ替わり立ち替わり、共に学び合う

ここは集中できるなー

意外と面白そうな本がある

最近おいしいコーヒーの
淹れ方を習ったんだ

本に興味なくなってもお茶しに行くらなくとも出会うような、
ふと入口だっている

来月は27日何曜日？

〇〇君のおすすめだって！

今月は賢治と鳥獣がテーマか

国連空間の中心で、花巻文化を軸とした分野横断的な試みの場が活発く

本の借還方法が知りたいです！

人手が空いて良かったよ

これでZINEもつくろね

みんなの手でつくれるといいな

職員が全てやる必要はなく、利用者の手を借りる開かれた運営

お母さん、あれすごい！

何だろう、図書館にきてみてみよう

CGの歴史と制作技法、やっとなんか

D

ただでさえ、書物出会うことのない人々にも出会う

図1 事業モデルと事業モデルキャンバス

事業モデルキャンバスは、顧客セグメント、価値提案、チャネル、関係者、収入源、費用構造、活動、資源、運送の9つの要素から構成される。事業モデルは、価値提案、収入源、費用構造、活動の4つの要素から構成される。両者は互いに影響を与え合っている。

よく育ってきても！

お母さんになりそうなお母さんもってくるわ

この本は切ったほうがいいのかな

これららのDVDで夢の中に行きましょ

読書と実感が連続的に結びつくことで
学ばずには身が育たず、生きた知とな

コンズホールと連携した舞台として、
あるいはものづくりスペースと連携した屋外作業空間として。

車窓を迎えるコミュニティアート 春市広

国口駅を抑えた西側壁画は、
地域住民の手による大規模壁画作品が彩る。

[illegible]

こうやって使んだよ！

友は〇〇学校だ！

図書館は作品を制作する場であって！

あそで駅りに行こうかな

この会社、お花だっけだ！

なんだか英になる話

花売での生活、仕事のリアルが発信される情報ステーション

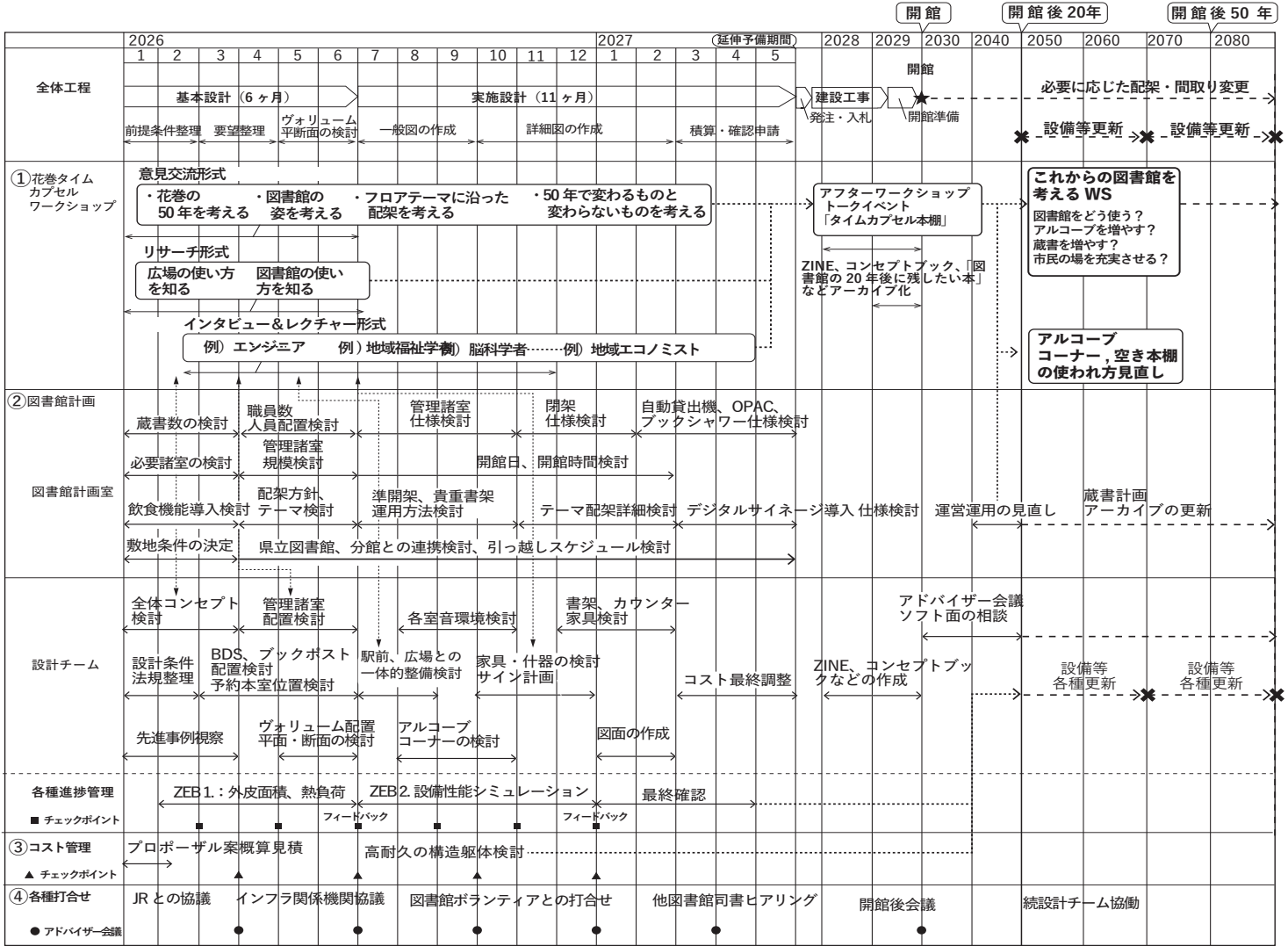
この本、おすすりしたいんですよね
美術もいいですね！

次はこの本を借りてみようか

同じ空間を適切な距離感で共有し、互いの気配を感じながら個々の時間を過ごす

私たちは、新花巻図書館を50年スパンで考えます

蔵書計画にある50年のスパンでみると、建物規模や他館の耐用年数、人口動態等を考慮すると、「新図書館の姿を再考するタイミング」を設定する必要があと考えます。開館後20年をひとつの目処と捉え、その後の設備更新や蔵書計画を見据えて設計します。



＜①ワークショップ等による意見の反映方法＞

これからの図書館を考える「花巻タイムカプセルワークショップ」

- 「花巻の50年」をテーマにした「花巻タイムカプセルワークショップ」を検討します。将来をイメージしながら意見を交わすことで、世代を超えて市と図書館のあり方を議論し、計画に反映させます。「花巻タイムカプセルワークショップ」は意見交流形式、インタビュー＆レクチャー形式、リサーチ形式の3つの系統に分かれ、それらを相互に連動しながら進めます。
- インタビュー＆レクチャー形式では各分野の専門家に「これからの50年」をインタビューしていくことを検討します。変わりゆく社会を見据え、新図書館のあり方への知見を得て、意見交流形式のワークショップと図書館計画に反映させます。
- 花巻タイムカプセルワークショップの記録（ZINEなど）や制作物は、開館後しばらく空いている本棚に収めてアーカイブします。
- 建設中、建設後の駅前多目的広場の利用方法や建物ヴォリューム及び配置案など、模型やパースなどのヴィジュアル素材を用いて、市と市民の合意形成の支援をします。
- 工事中のアフターワークショップでも引き続き専門家を交えたトークイベントの開催やアーカイブブックの制作、設計・工事の記録づくりなどを行い、市民との関係が希薄になりがちな建設期間にも、図書館完成に向けた機運を市民とともに高めていきます。
- アフターワークショップでは「図書館の20年後に残したい本」を一冊選び、2050年に公開する「プレゼント（現在・贈り物）プロジェクト」を計画します。この成果物は開館後にアーカイブします。
- 上記のようなワークショップの回数や取り組みなどの実施については、市の予算や方針に応じて取捨選択し、柔軟に検討していきます。

＜②業務進捗管理の体制＞

ソフトとハードが連動する図書館

- 設計スケジュールはかなり厳しいスケジュールため、設計の早い段階から他館を含めたソフト（運営）を考慮にいれながらハードの検討を進めます。特に開館後の蔵書計画や必要諸室検討を早期に開始し、長期的な運用と建築計画を一体化させていきます。
- 電子書籍やオンラインコンテンツも早い段階から検討します。また、花巻の歴史写真や宮沢賢治関連の資料をデジタルアーカイブし、将来に渡って閲覧できる環境を考えます。
- 各フェーズでの課題を早期に把握し、適切な対策を講じながら、全体予算の最適化を図ります。
- 都市構造再編集支援事業補助金等の遂行期限を踏まえ、前提条件および要望事項を早期に整理・確定することで、厳しいスケジュール条件においても、着実かつ迅速に業務を遂行します。

<③コスト管理の体制>

段階的なコストチェック

- ・最初にプロポーザル案の概算見積を取り、予算との整合を早期に図ります。その後も精度を上げながら複数回のコストチェックを行い、関係者にも共有します。

物価高騰を見越した面積のコンパクト化

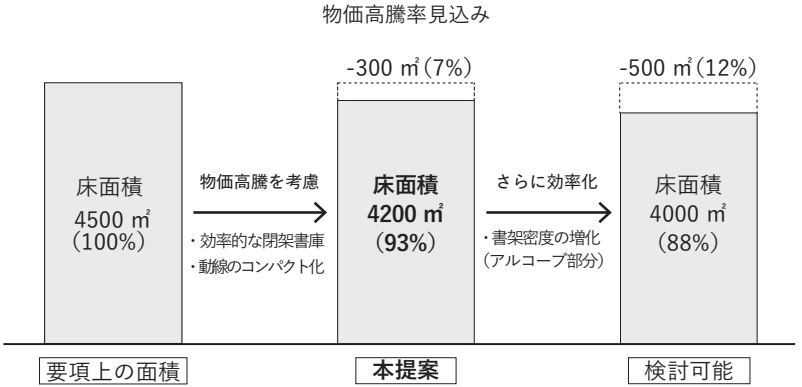
- ・入札予定時期までに7%^{*}物価高騰することが予想されています。効率的な閉架書庫や、動線のコンパクト化によって必要面積を抑え、現時点の床面積を想定93%（＝4200㎡）で計画し、コスト調整代にすることを提案します。さらに、プランの効率化により床面積を88%（＝4000㎡）までコンパクトにすることも検討可能です。

合理的な構造計画によるコスト管理

- ・耐用年数80年を見越した構造および設備計画とし、メンテナンスコストおよびランニングコストを下げる計画とします。イニシャルコストとのバランスを図りつつ、トータルのライフサイクルコストを低減します。

コストコントロールしやすいフレキシブルな計画

- ・本提案は、床面積の調整や開口部の数量、乾式間仕切りの数量、本棚の設置量など、本提案の構想範囲内でのコスト調整が容易です。コンセプトを維持しながら調整代を多数持つ、フレキシブルな計画です。



<④そのほか特に重視する業務体制>

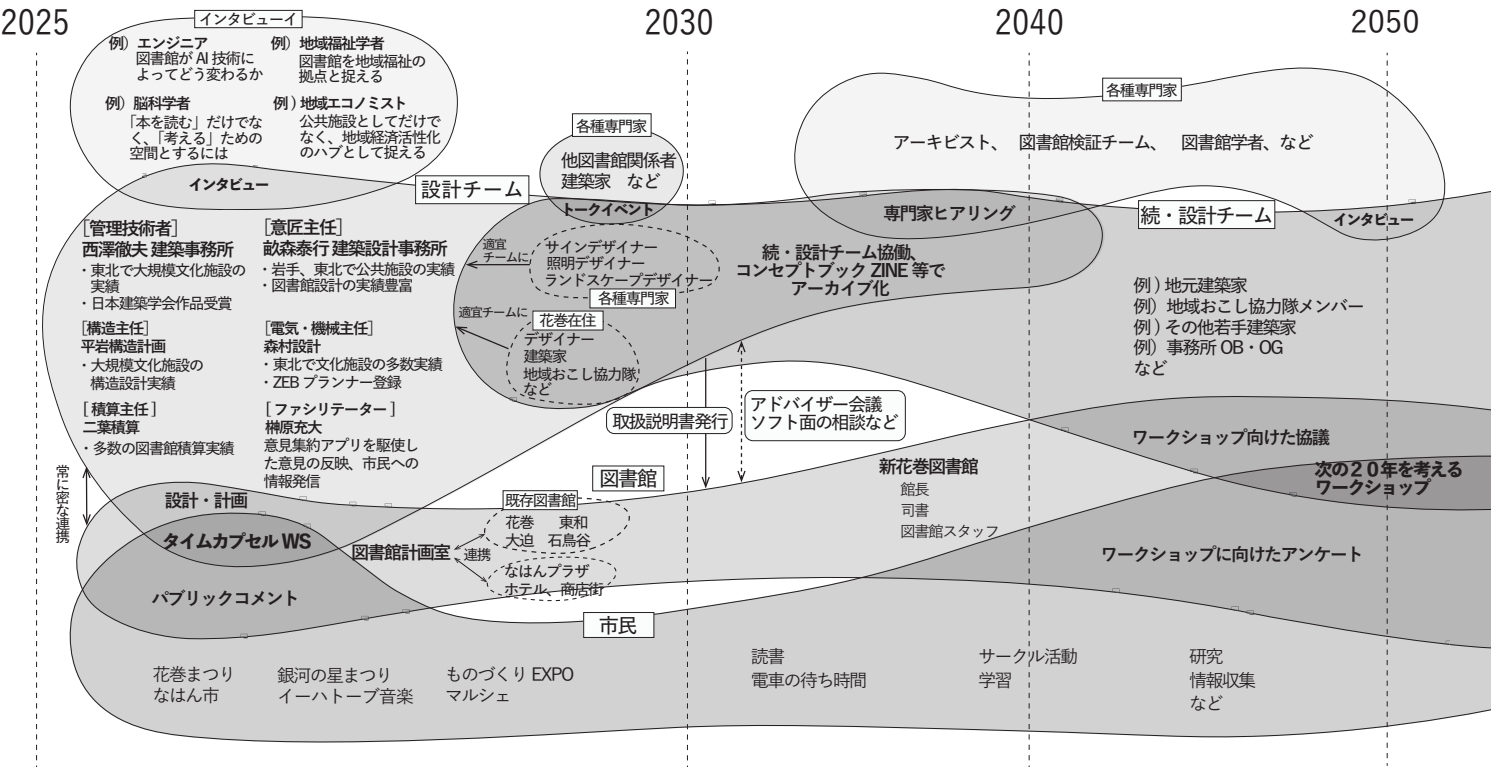
多角的な議論を通じて考える実績豊富なチーム

- ・図書館、文化施設等の公共実績に加え、東北など寒冷地の設計実績が豊富な設計チームです。今回のように関係者が複数にわたり、複雑な調整が求められる設計も得意としており、コミュニケーションを丁寧に取りながら業務を進めます。
- ・管理技術者および意匠主任は、過去にもそれぞれで共同体を結成して多くのプロジェクトを手がけてきました。チームとして議論や協働をすることは、さらに複数の主体によって客観性や合理性を多角的に確認する必要がある公共建築を進めるうえで高い効果を発揮します。
- ・関係各所との定期的な打合せに加え、審査員の皆さんや有識者とのアドバイザー会議を複数回設けることを提案します。専門的な観点から設計の状況を確認していただき、よりレベルの高い、長期的に使われる建物を目指します。

50年スパンで考えるゆるやかな協働

- ・プロポーザル段階では最小限のチームにとどめ、各フェーズで課題を具体的に把握してから適切な専門家や地域に精通した人材と戦略的に議論を深めながら、協働者を加えて柔軟にチーム構成を変容させる方針とします。このアプローチにより、常に客観的視点を確保し、最適解を導き出すことが可能です。
- ・アドバイザー会議などに参加し、運営中の図書館の声に耳を傾けながら、継続的なサポートをいたします。また、設計中のプロセスをドキュメントとしてまとめ、開館後のアフターワークショップ等に活かします。
- ・竣工後も図書館と関わりながら、地元や若手の建築家・デザイナーをアドバイザー会議に迎え入れ、図書館の使われ方や運営などを共にアーカイブしつつ、設計時の知見をゆるやかに継承していきます。こうして、新花巻図書館を50年にわたり支える体制を整えます。

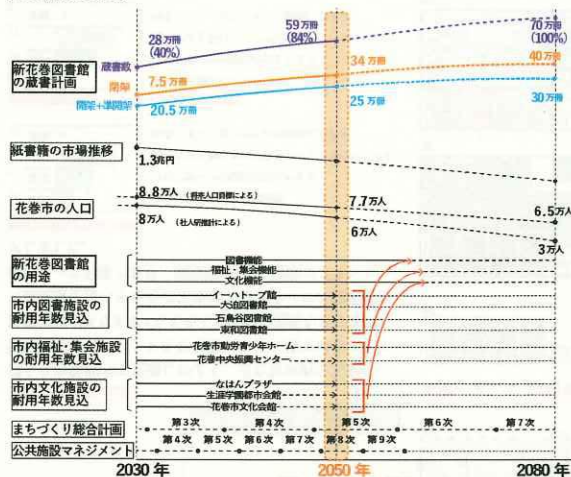
<各組織・人の関わりイメージ図>



これからの花巻の50年をどう考えるか

新花巻図書館の基本計画には、今後50年の蔵書数目標が70万冊と記載されています。また新花巻図書館は、大迫図書館、石鳥谷図書館、東和図書館を束ねる本館としての役割を担いますが、これらとの関係は既存図書館の耐用年数や人口動態によっても変化していくでしょう。3次、4次花巻市まちづくり総合計画が発表される2050年までに、図書館のあり方も再検討されることが予想されます。いまま国内の公共建築は、このような長期的な視野とその使われ方の関係が問われています。

そこで私たちはまず、新しい図書館が今後50年間、どのように使われていくべきか、また建築がどのような未来を見据えることができるのかを考えるとから始めたいと思います。そしてオープン後20年の2050年を目処に蔵書計画や使い方を再考する時期と捉え、おそらく変わることのない人と本との親密な関係と、変わっていくであろう社会的要請に対して、5つの論点から本計画を提案します。



図書館の主な役割である保存、収集、編集などの機能は時代が経っても変化しないと考えられる一方、花巻市において、周辺の公共施設の用途や求められるものが変わるという不確定な未来を視野に入れた柔軟な計画が必要です。それは固定的なものではなく輪郭を変化させ続ける図書館だと言えるでしょう。宮沢賢治の言葉に「永久の未完成 完成である」という言葉があります。花巻市の図書館も、このように社会変化や要請に応じて、常に変化する図書館がふさわしいのではないかと考えました。



「アルコーブ」と「まどテラス」

竣工時に70万冊分の書架を全て用意することは50年間、何にも使えない空間を抱えることになります。そのため、将来所蔵されるはずのスペースをまずは専門書が配架される準開架や、研究スペース、テーマ配架等に利用される小さな部屋の集合「アルコーブ」としてつくり、開架・開架と現状・将来計画のバッファとして計画します。そして一旦開架書架は34万冊分の収納量とどめ、2050年に図書館のあり方を問う契機とすることを提案します。また、開架時には本棚に対して本が少ない状態となりますが、空きスペースを展示やホワイトボード、アーカイブ棚などの用途に活用できるよう、フレキシビリティのある本棚を提案します。



屋内外化可能な「まどテラス」
各フロアに半屋外の「まどテラス」を複数計画します。将来建具を設置すれば屋内化することが可能で、市民活動のスペースを確保しながら蔵書数の増加に対応することができます。

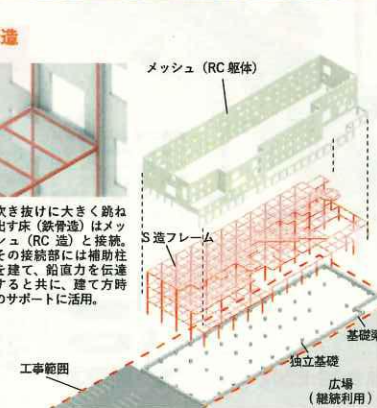
本と出会い、読み、学ぶ、経験の普遍的なスケールの「コーナー」

私たちが一人で本を読む時の空間、複数人で勉強する時の広さ、本を探す時の本棚の間隔や高さ、といった身体にまつわる基本的な経験は今後も変わらないでしょう。そのため、本と人をつなぐ家具デザインは特に重要です。利用者が自由に居場所を選択し、各々の時間を過ごせる「コーナー」を家具も含めて考え、静かに本を読んだり、研究したり、ただ階下のひとと眺めたりすることができる空間をつくりたい。コーナーは各階のフロアテーマや利用に合わせて多様な環境をつくりたい。

80年の耐用年数を持つ堅牢なメッシュ構造

花巻市文化会館は開館50年を迎え、さらに設備更新によりさらに30年維持すると聞きました。本施設も、シンプルかつ堅牢なRC造で外壁をメッシュ状につくり、線路からの振動や騒音、漏水を防ぎつつ地震力を担う計画とします。一方内部は、将来の間仕切りの変更や家具の更新ができるように、耐震性能を担わない鉄骨造でつくりたい。軽量かつ長スパンが可能で、設計中のプランニングや配架の自由度を高めます。基礎梁範囲を外周に限定することで、打設量および掘削量の削減（＝インシヤルコスト減）に加え、南側の駐車場をヤードとして利用し、工事中でも様々なイベントを広場で継続して行うことができます。工期の前半が冬季にあたりますが、ピン接合による鉄骨工事を先行させることで滞りなく工事を進めることが可能です。

2030年	2050年	2080年
まどテラス 7.5万冊 本棚余裕 26.5万冊 本棚余裕 0.5万冊 子ども 学習 展示 福祉 研究 福祉 （テーマ配架） 16万冊	まどテラス 34万冊 5万冊 子ども 学習 展示 福祉 研究 福祉 （テーマ配架） 20万冊	まどテラス 7.5万冊 2万冊 子ども 学習 展示 福祉 研究 福祉 （テーマ配架） 23万冊



省エネルギー性と更新性を備えた環境計画

階高を抑えたコンパクトな4階建てとし、空調負荷が大きい窓サイズと屋根面積を抑制することで、外皮面積を最小限に抑えます。各階にはパッケージエアコン（PAC）を設置し、省スペース化と更新性を確保します。1階は断熱床暖房を検討し、吹抜けの冬の暖房立ち上がり安定させ、冷気が溜まる最下階を足元から暖めつつ、夏期においても居住域を効率的に空調します。外壁は適切な断熱厚さを考慮した外断熱とし、熱損失を最小限に抑えます。また、外壁開口部は全て方位によって大きさや仕様を変えたバリエーションとし、外壁の厚みも活用して熱環境を調整でき、大きなコールドドラフトを生じさせない仕様とします。例えば、北面では外付けの日射取得型、南面では内付けの日射遮蔽型のLow-eペアガラスとするなどを検討します。特に立面の大きい東西面については、夏期の夕方の冷房負荷増大を抑えるため、窓を多く必要としない諸室を西側に配置し、開口部のサイズや二重ガラス内部へのブラインド設置などを検討します。これらの方法により、ZEB Ready の確実な実現を図るとともに、屋上及び駐車場等への太陽光発電パネル設置により Nearly ZEB 以上も視野に入れて検討します。



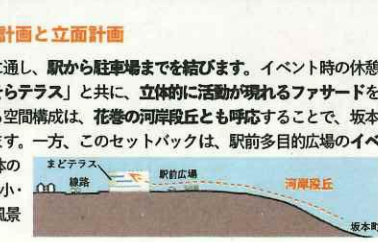
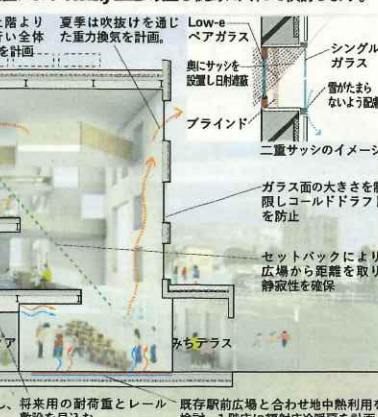
歴史を継承し文化を育む、開わり合う広場計画と立面計画

駅前多目的広場に面して半外部の「みちテラス」を南北に通し、駅から駐車場までを結びます。イベント時の休憩や観覧席、電車の待合としても利用でき、その上部の「そらテラス」と共に、立体的に活動が現れるファサードを広場に向けてつくりたい。また、内部のセットバックする空間構成は、花巻の河岸段丘とも呼称することで、坂本町から上り下りする街の体験と連動する図書館を目指します。一方、このセットバックは、駅前多目的広場のイベント時の喧嘩から一定の静かさを保ちます。また建物全体のボリュームは、なはんプラザのスケールに合わせて、大小内外の無数の窓に、図書館で過ごす人々の様子が現れる風景をつくりだします。



資料②-2

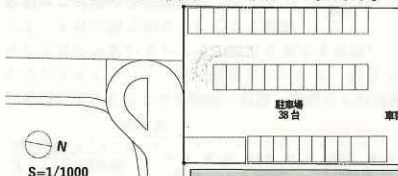
階高を抑えたコンパクトな4階建てとし、空調負荷が大きい窓サイズと屋根面積を抑制することで、外皮面積を最小限に抑えます。各階にはパッケージエアコン（PAC）を設置し、省スペース化と更新性を確保します。1階は断熱床暖房を検討し、吹抜けの冬の暖房立ち上がり安定させ、冷気が溜まる最下階を足元から暖めつつ、夏期においても居住域を効率的に空調します。外壁は適切な断熱厚さを考慮した外断熱とし、熱損失を最小限に抑えます。また、外壁開口部は全て方位によって大きさや仕様を変えたバリエーションとし、外壁の厚みも活用して熱環境を調整でき、大きなコールドドラフトを生じさせない仕様とします。例えば、北面では外付けの日射取得型、南面では内付けの日射遮蔽型のLow-eペアガラスとするなどを検討します。特に立面の大きい東西面については、夏期の夕方の冷房負荷増大を抑えるため、窓を多く必要としない諸室を西側に配置し、開口部のサイズや二重ガラス内部へのブラインド設置などを検討します。これらの方法により、ZEB Ready の確実な実現を図るとともに、屋上及び駐車場等への太陽光発電パネル設置により Nearly ZEB 以上も視野に入れて検討します。



これからの花巻の50年のための計画

4階建ての人員配置について

これからの図書館サービスでは、従来の固定されたレファレンスカウンターだけでなく、**スタッフが利用者へ積極的に向かい接点を増やす巡回型の運用**がふさわしいと考えます。またこの運用方法が4階の図書館に有効か検証するために、1次審査以降同規模程度の複数の図書館に実地見学およびヒアリングを行いました。巡回型により「問い合わせの少ない文学などを配架することでレファレンスカウンターを設けないフロアをつくる」「吹抜けによる管理上の見通しを確保する」といった知見が得られ、空間にゆとりをもつ4階の計画の可能性が十分であると判断しました。ただし、4層案を確定とするのではなく、運用の柔軟性を考慮し、**4階を閉架書庫やバックヤードのみとして市民が立ち入らないフロアをつくる代替案も用意**しています。これは空間的な魅力を極力損なわないように配慮した提案です。最終的な4階の方針については、今後、皆様とのワークショップで決定していきたいと考えます。



3層と4層の比較

限られた敷地内で見通しがよく、また将来的な可変性と管理動線のコンパクトさを考慮すると4層であることには優位性があります(もちろん3層の可能性もあります)。人員配置を減らすための工夫はフロアテーマの設定や構成によって可能であり、現段階では4層案でプランニングしました。

4階に利用者が訪れる場合

- 4F 閉架
 - 3F 閉架
 - 2F 閉架
 - 1F 事務
- 大きな吹抜けによる開放感
△フロアテーマの個性の出しやすさ
△賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ
△みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

4階を閉架書庫とバックヤードのみとする場合

- 4F 閉架
 - 3F 閉架
 - 2F 閉架
 - 1F 事務
- 大きな吹抜けによる開放感
△フロアテーマの個性の出しやすさ
△賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ
△みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

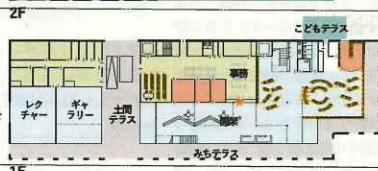
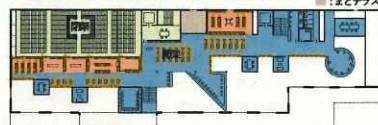
3層の場合

- 3F 閉架
 - 2F 閉架
 - 1F 事務
- △大きな吹抜けによる開放感
△フロアテーマの個性の出しやすさ
△賑やかさと静けさのグラデーションのつくりやすさ
△みち・そら・まどテラスの計画しやすさ

★：レファレンスカウンター設置 ☆：ミニカウンター設置



平面イメージ(4階に利用者が訪れる場合)



平面イメージ(4階を閉架書庫のみの代替案)



循環する図書館

富沢賢治が農や芸術、宇宙などが融合する有機的な思想体系を築いたように、花巻市には豊かな知の土壌があります。この土壌をフロアテーマに設定し、それらが循環する創造的な図書館を目指します。

多様な活動を行うアルコブ
企画展示や市民貸出スペース、作業スペースなど図書館以外の機能を入れたり、イベントといたった仕様を様々な場へ変更することが可能です。



閉架に見えるアルコブ
一部アルコブと閉架書庫はガラス越しに見えることを検討します。スタッフは閉架から直接出入りが可能です。



拡張可能な閉架書庫
将来、閉架書庫を増設する際は、アルコブに拡張できます。そのためアルコブの床は、耐荷重やレベル調整を予め見込んだ計画とします。

市民活動の拠点
開架閲覧エリアとバックヤードの両方からアクセスできる市民活動スペース。間仕切りを設ければ一体的なワークショップも可能です。

利用者からも感じられるバックヤード
バックヤードとの境界壁には一部にガラス窓を設けることで、利用者から図書館の運営などを見ることができ、身近に感じられる図書館を目指します。



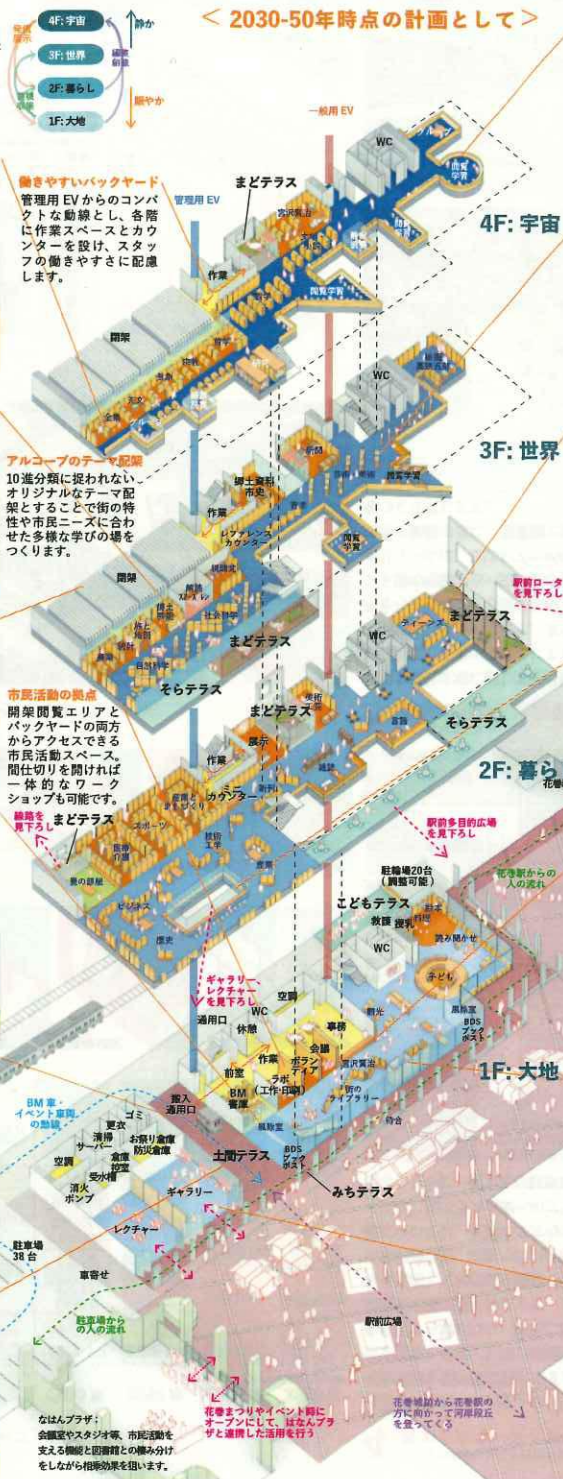
本の搬出入の可視性
東西を貫通する土間テラスでブックモビルの搬出入を行い、ここからブックモバイル書庫や地域配本室、作業室、事務室へ無駄のない動線が結ばれます。



土間テラスの多目的利用
半屋外スペースの土間テラスは、本の搬入に加え、イベント時の準備や出店の拡張スペースなど多目的に利用可能です。



< 2030-50年時点の計画として >



立体的に見える様々な活動

読書や調べ物、おしゃべり、勉強などの図書館における様々な活動が、吹き抜けを介して立体的に見えます。



置家具の小さなコーナー
それが居場所を見つけ快適に過ごせるための家具の設置とコーナーをつくります。



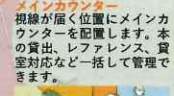
安心感のある「まどテラス」
各階に屋根付きの屋外テラスを設けます。囲まれた安心感があり、街を見ながら読書やおしゃべり、飲食など、サードプレイスとしての図書館の幅をひろげます。



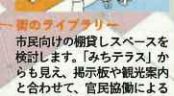
新設ロータリーを見下ろし
吹き抜けから展示の雰囲気を感じることができると関連させたテーマ配架も可能です。



メインカウンター
視線が届く位置にメインカウンターを配置します。本の貸出、レファレンス、貸室対応など一括して管理できます。



街のライブラリー
市民向けの棚貸しスペースを検討します。「みちテラス」からも見え、掲示板や観光案内と合わせて、官民協働による街の情報発信を担います。



多目的な「みちテラス」
可動間仕切りを開閉して一体的に利用可能です。イベント時は駅前多目的広場と連続でき、さらに吹き抜けを介して上階と断面的に繋がります。



1階のみちテラス
街のライブラリーが見え、駅前多目的広場と連続する屋根のある通り

